

西三月從公儀御触出写、

今度松平周防守元領分石州濱田
松原浦ニ罷在候無宿八右衛門竹嶋江致
渡海候一件吟味之上右八右衛門其外夫々
巖科ニ被行候、右島往古者伯州米子
之もの共渡海魚漁等致候といへとも

元(マメ) 錄ノ 之度朝鮮國へ御渡ニ相成候、已來

渡海停止被仰出候場所有之、都而

異國渡海之義ハ重き御制禁ニ候条

向後右之島之儀ハ同様相心得渡海致

間敷候、勿論國々之廻船等海上おゐて

異國船不出会様乘筋等心懸可申旨

先年も相触候通弥相守、以來ハ可成

たけ遠沖乗不致様乘廻り可申候

右之趣御料者御代官、私領者

領主地頭より浦方村町共不洩様

可触知候、尤触書之趣板札ニ相認高札

場等ニ懸置可申もの也

二月

右之通可被相触候

從

公儀別紙之通御触ニ候間

其旨相触可申候

右之通御触ニ候間此段左様

御承知可被成候、已上

安本助右衛門

三月廿二日

別触中